

交運労協第1次アジア調査団

深セン・香港で港湾・鉄道・車両関係の施設を視察



十一月八日から十二日にかけてアジア交通運輸事情調査団に参加し、深センと香港に行き、港湾・鉄道・車両関係の施設を視察しながら参加者相互の交流を詰ってきまし

香港は香港島と九龍半島からできており、人口七三〇万人で面積は東京と同じぐらいです。中国の改革開放政策（一九七九年）に基づき、一九八四年に鄧小平とサッチャーが返還調印し、イギリスの植民地協定（二〇〇〇年協定）の切れる一九九七年に中国に返還されました。それ以降一国二制度で二〇四七年に完全統合されます。

香港島は山が多く平野が少

ないため超高層のマンションが林立しており、火事や地震を想定すると不安に思えますが、二〇〇年以上地震が全く無いそうです。一般市民の多くは二〇平方メートル前後の狭い部屋で四、五名が生活しているようです。

香港の港は空港から近く深センからも近い位置にあります。昔から自由貿易港であり関税制度がなく輸出入貨物も国内物流の扱いです。

香港日通の関係で港の説明を聞いたところ、水深は一五・五メートルあり二万TEUの大型船が就航しており昨年は一九八〇万TEUと世界第五位で今年はそれを上回る取扱いのようです。

一四三万平方メートルの広さに二四バスあり五社のターミナルオペレーターが入りガントリークレーンが九四基



鄧小平氏とサッチャー氏の像が置かれていた

あります。トランシップ貨物が中心ではありませんが、巨大な倉庫では航空貨物と合わせて合理的な配送業務が行われています。港も空港も二四時間稼働で夜中に到着した食料品も午前中に食卓に揃っています。隣接する中国（深セン）への輸送のため海コンのナンバープレートは両国を走行できるダブルナンバー車が多く走っています。国境の税関手続きも簡素化され短時間で処理されます。

翌日高速フェリーに一時乗船して深センに行きました。深センは北京、上海、杭州につぐ国際都市であって中国国政府直轄の超特別な経済特区になっています。改革開放政策で一九八九年から開発され始め、山を削って海を埋め立てられました。当時の人口は漁民を中心に三万人ほどでしたが今は二〇〇万人以上に増え経済成長率（GDP）は三〇%以上を数年続けています。

深セン港とは蛇口、赤湾、南沙、塩田などの港を合わせ総称であり昨年の取扱量は二四〇〇万TEUで世界第三位にあります。今回私たちが蛇口コンテナターミナルを視察しました。二バスあり、ガントリークレーンが二

〇七基もあり、取り扱いは年五〇〇万TEUです。私たちの視察の時、一万六〇〇TEU積の全長三六〇メートルある大型船の作業を見ること

〇七基もあり、取り扱いは年五〇〇万TEUです。私たちの視察の時、一万六〇〇TEU積の全長三六〇メートルある大型船の作業を見ること

〇七基もあり、取り扱いは年五〇〇万TEUです。私たちの視察の時、一万六〇〇TEU積の全長三六〇メートルある大型船の作業を見ること



今回の七尾市議会議員選挙に於いて、地域・住民の皆様、そして全国各地の全港湾の仲間から絶大な御支援、御厚情を賜り誠に御礼申し上げます。初当選を果たすことが出来ました。心から感謝申し上げます。

いままでは七尾支部は全港湾の歴史に基づき常に強い団結



七尾市議会議員当選を受けて

日本海地方七尾支部執行委員長 森 憲一

力を持って選挙闘争を戦ってきました。私としても、全港湾中央本部の教えを守って、地方港である七尾港を守り、安倍政治がこの地方港を切り捨てるようなことがあれば、決して許すことは出来ませ

七尾市議会選挙と同時に行政なればに国会と、国民の民意との間の溝はむしろ大きく深くなったと言わざるを得ません。世論調査に依りますと原発問題、改憲問題、オスプレイ配備の問題、TPPの問題、消費税増税問題、どれを取ってみても安倍政権の政策そのものを支持するより、支持しないと言うほうが上回っています。

今年も暑い日が続きました。一時期、夏になるとよく「節電、節電」と騒いでいたのですが、今年はまったく聞かれませんでした。電力は十分足りているのです。現在、原発のほとんどは稼働していませんが、先般、中部電力は浜岡原発二基の再稼働を行う申請をしました。地元住民の皆さんは、つい最近まで「原発再稼働に必要な対策が分からない」と言っていたのに、いきなり「安全だから再稼働」とは「無責任そのものだ！」と怒っています。

住民の置かれている現状をわからない安倍政権は、さらに外国に原発を輸出しようと思っただけです。放射能汚染による健康問題についても、現時



最後になりますが、なぜ、私が今回の七尾市議会選挙への立候補決意をしたのか？それは、「働く者の生の声」を七尾市政に直接届けたいからと思っただけです。現在の働く者の状況は、格差が拡大し、長時間労働過労死の問題、非正規雇用の増大等々、多くの課題が山積しています。私は額に汗して働く者の代表として、全港湾中央本部、日本海地方本部の指令、指導で培ってきた運動を原点として、七尾市政で奮闘します。皆様の応援本当にありがとうございます。

今年の夏も暑い日が続きました。一時期、夏になるとよく「節電、節電」と騒いでいたのですが、今年はまったく聞かれませんでした。電力は十分足りているのです。現在、原発のほとんどは稼働していませんが、先般、中部電力は浜岡原発二基の再稼働を行う申請をしました。地元住民の皆さんは、つい最近まで「原発再稼働に必要な対策が分からない」と言っていたのに、いきなり「安全だから再稼働」とは「無責任そのものだ！」と怒っています。

住民の置かれている現状をわからない安倍政権は、さらに外国に原発を輸出しようと思っただけです。放射能汚染による健康問題についても、現時

今年も暑い日が続きました。一時期、夏になるとよく「節電、節電」と騒いでいたのですが、今年はまったく聞かれませんでした。電力は十分足りているのです。現在、原発のほとんどは稼働していませんが、先般、中部電力は浜岡原発二基の再稼働を行う申請をしました。地元住民の皆さんは、つい最近まで「原発再稼働に必要な対策が分からない」と言っていたのに、いきなり「安全だから再稼働」とは「無責任そのものだ！」と怒っています。

住民の置かれている現状をわからない安倍政権は、さらに外国に原発を輸出しようと思っただけです。放射能汚染による健康問題についても、現時



掲げられていた標語

し、シェアを拡大するのと同時にトヨタ車などの外国車が激減するとも述べています。既に大型電気バスはヨーロッパに多く輸出されています。中国政府が模範の都市として深センの建設に取り組んでいることを見ると、中国は大きく発展すると思われました。（大野 進）

今年も暑い日が続きました。一時期、夏になるとよく「節電、節電」と騒いでいたのですが、今年はまったく聞かれませんでした。電力は十分足りているのです。現在、原発のほとんどは稼働していませんが、先般、中部電力は浜岡原発二基の再稼働を行う申請をしました。地元住民の皆さんは、つい最近まで「原発再稼働に必要な対策が分からない」と言っていたのに、いきなり「安全だから再稼働」とは「無責任そのものだ！」と怒っています。

住民の置かれている現状をわからない安倍政権は、さらに外国に原発を輸出しようと思っただけです。放射能汚染による健康問題についても、現時

今年も暑い日が続きました。一時期、夏になるとよく「節電、節電」と騒いでいたのですが、今年はまったく聞かれませんでした。電力は十分足りているのです。現在、原発のほとんどは稼働していませんが、先般、中部電力は浜岡原発二基の再稼働を行う申請をしました。地元住民の皆さんは、つい最近まで「原発再稼働に必要な対策が分からない」と言っていたのに、いきなり「安全だから再稼働」とは「無責任そのものだ！」と怒っています。

住民の置かれている現状をわからない安倍政権は、さらに外国に原発を輸出しようと思っただけです。放射能汚染による健康問題についても、現時



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者
真島勝重



がで、二〇フィートダブル吊りで作業していました。また、塩田港は水深一七・六メートル、ガントリークレーンが八五基あり年間一〇〇〇万TEU以上取り扱う自動化の港です。これらの港は珠江河の河口にあり、川は広州まで

このほか交運労協の視察は深センの地下鉄と鉄道と新幹線の乗り入れる巨大なホームの見学や、香港の二両編成で全長三〇メートルの列車にも試乗しました。日本とは違い吊革広告はなく社会主義国家建設のための標語（自由、平等、愛国、富強、公正、

域を見たとき、華南地区としてのコンテナの取り扱いとしては上海を凌ぐ世界一の規模になります。

このほか交運労協の視察は深センの地下鉄と鉄道と新幹線の乗り入れる巨大なホームの見学や、香港の二両編成で全長三〇メートルの列車にも試乗しました。日本とは違い吊革広告はなく社会主義国家建設のための標語（自由、平等、愛国、富強、公正、

今年も暑い日が続きました。一時期、夏になるとよく「節電、節電」と騒いでいたのですが、今年はまったく聞かれませんでした。電力は十分足りているのです。現在、原発のほとんどは稼働していませんが、先般、中部電力は浜岡原発二基の再稼働を行う申請をしました。地元住民の皆さんは、つい最近まで「原発再稼働に必要な対策が分からない」と言っていたのに、いきなり「安全だから再稼働」とは「無責任そのものだ！」と怒っています。

住民の置かれている現状をわからない安倍政権は、さらに外国に原発を輸出しようと思っただけです。放射能汚染による健康問題についても、現時

今年も暑い日が続きました。一時期、夏になるとよく「節電、節電」と騒いでいたのですが、今年はまったく聞かれませんでした。電力は十分足りているのです。現在、原発のほとんどは稼働していませんが、先般、中部電力は浜岡原発二基の再稼働を行う申請をしました。地元住民の皆さんは、つい最近まで「原発再稼働に必要な対策が分からない」と言っていたのに、いきなり「安全だから再稼働」とは「無責任そのものだ！」と怒っています。

住民の置かれている現状をわからない安倍政権は、さらに外国に原発を輸出しようと思っただけです。放射能汚染による健康問題についても、現時

冬季一時金闘争 連合・国民春闘共闘は増加傾向続く

全闘争分会の回答状況

各地方一時金交渉の回答が促進してきた。11月24日現在、闘争分会321分会中、102分会(32%)に有額回答が示され、そのうち17分会が妥結した。回答額平均は500、184円(昨年同時期の回答額平均528、006円を27、822円下回っている)、妥結額平均は558、831円、率は1.71ヶ月となっている。参考までに、2016年冬季一時金妥結額実績は475、495円であった。

速報分会の回答状況

142分会中、46分会(32%)に有額回答が示され、そのうち13分会が妥結した。回答額平均は536、739円、妥結額平均は569、802円、率は1.69ヶ月となっている。参考までに、全港湾の昨年の速報分会冬季一時金妥結額実績は498、310円であった。

他団体の回答状況

日本経団連(11月6日現在)の集計では、加重平均916、396円で、昨年同時期の927、420円11、024円下回っている。

連合(11月6日現在)の集計では、加重平均687、124円で、昨年実績635、215円を51、909円上回っている。

国民春闘共闘(11月17日現在)の集計では、加重平均681、364円で、昨年実績617、701円を63、663円上回っている。

諸問題、港湾産別制度賃金について、港湾労働者の雇用安定・職域拡大、フレキシブルバックによる危険物貨物輸送問題、インランドデポやコンテナラウンドコース(CR U)の施策、SOLA S条約の改正に伴う「重量証明」問題、四五フィートコンテナの



海コン・トラック・バス合同対策会議
国交省より総合物流大綱などの説明を受ける

十月三十一日、十一月一日、第一回海コン・トラック・バス合同対策会議をナビオス横浜にて開催しました。中央本部役員、各地方から二九名が出席、学習講演会の講師として、国土交通省より二名の講師にきていただきました。

初日の学習講演会では、国土交通省総合政策局物流政策担当者を講師に招いて「総合物流大綱二〇一七年〜二〇二〇年」について講演を受けました。

総合物流大綱の講演では、物流は我が国の産業競争力の強化、豊かな国民生活の実現と地方創生を支える、社会インフラであり途切れさせてはならないと考えている。新技術の活用、サプライチェーン全体の効率化、高い付加価値を生み出す物流への変革、実現を目指していく。また、近年トラック産業は大変厳しいものとなっており、赤字傾向が続いている。貨物輸送が小口化し多頻度化している。人口は減少してきており、労働力不足が顕著なっている。約

公道走行問題、危険物貨物情報事前周知の徹底等々について回答を受け、質疑応答をおこなった。

その結果は、残念ながら今回も解決に即繋がるような踏み込んだ回答を得ることはできなかったのだが、粘り強く交渉を繰り返して、継続して行

くことに大きな意味があると見、次回の交渉に向けて更に磨きをかけていくとした。

波議員の参加を得、有意義な一時を過ごすことができた。

また、日本共産党・宮本議員、社会民主党・吉川議員と

「台湾の選択と集中で地方港の雇用と就労が脅かされている」等々と述べ、問題解決に向け、理解・協力を求めた。



十一月二十一日、二十二日、全国港湾・港運同盟の共催による一七年度の中央行動(行政交渉、船社・ユーザー要請行動)がおこなわれ総勢八八名程が参加した。

外船協、日本貿易会に対しては「港湾労働政策に関する申し入れ」をおこない、労働環境の整備、適正な港湾運送料金の支払い等々について理解・協力を求めた。

そして、船社アライアンスに係る問題、港湾運送事業基盤の安定に資する諸課題、港湾政策に係る諸問題、港湾労働者の雇用と職域に係る問題、安全・安心の諸施策と港湾機能の活用、労働法制に係

る諸課題と標準貨物自動車運送約款の改正について講演を受けました。現在、トラック

産業は国内貨物輸送の四割を担い、六万二千社、一八八万人が活躍している。しかし、トラックドライバーの求人倍率は二・三九倍、自動車運転全体では二・七一倍と非常に高く、深刻な人手不足です。

手不足の解消に向けては労働条件の改善(低賃金、長時間労働の是正)が不可欠となっている。長時間労働の要因のひとつは、荷主側先での長時間の待ち時間があり、荷主企業と運送事業者が一体となって、待ち時間の削減、荷役作業の効率化等長時間労働の改善に取り組むことが重要となっている。そこで、自動車運送事業者の働き方改革に関する関係省庁連絡会議が開催され、長時間労働の是正のための環境整備が検討されてきた。具体的には、一貫パレチゼーション(パレット企画の統一)と予約受付システムの活用、業務工程の変更および高速道路利用区間の拡大等による拘束時間の削減などを検証してきた。また、トラック

会では、適正運賃・料金収受に向けた方策を検討してきた。その結果、標準貨物自動車運送約款を改正し、待機時間料金・積込料金・取り卸料金を具体的に規定、付帯業務として横持ち・縦持ち・棚入れ・ラベル貼り・はい作業を追加することとした。そして荷主には運送状況と料金区分して記載するよう二〇一七年十一月四日より改めることとなった。待ち時間に

ついては二〇一七年七月一日から荷主都合による三〇分以上の待ち時間についての記録が義務(車両総重量八トン以上又は最大積載量五トン)となった。荷主側制度についても改善し、違反行為が荷主の指示で明らかにおこなわれた場合は荷主名の公表ができるようにした。

以上説明があり、その後たくさん質疑・意見交換があり、第一回海コン・トラック・バス合同対策会議の一日目を終えた。

二日目は交運協からの報告があり、シェアリングエコノミーの大規模反対集会(三月八日、日比谷野外音楽堂で開催予定)、運輸労連の時間を終えました。

(沖縄地方本部 宮城辰士)

もんじゅ廃炉！核燃サイクルを止める全国集会

例年なら、もんじゅを廃炉へ全国集会を開催する時期ですが、昨年の十二月にもんじゅ廃炉が正式決定され、今年から名称を変え十一月五日に「もんじゅ廃炉！核燃サイクルを止める全国集会」が開催されました。今年で二回目の集会になり全国から四〇〇人が参加しました。



第一部の集会では、主催者代表中島哲演さんのあいさつで「もんじゅの廃炉決定を喜ぶが手放しで喜んではいられない。廃炉がどう進められるか監視しなければいけない」と訴えていました。また、原英幸さんは「ナトリウムがいまだ配管内を循環しており、

第二部のシンポジウムでナトリウム火災が再度起きる可能性もある」と廃炉を早急に進める必要性も訴えていました。この後に参加者全員で「勝利宣言」「やったぞ！もんじゅ廃炉」などと声を張り上げシュプレヒコールをしました。



は、コーディネーターの藤本泰成さんとパネラーでもんじゅ訴訟に携わる弁護士の高渡雄一さんら三人が核燃料サイ

第五四回護憲大会

今こそ！憲法理念の実現を目指す

クル政策の問題点について触れ「日本全体からプルトニウムの利用をなくすようにしないといけない」と訴えていました。最後は二二年間もんじゅを廃炉へ全国集会に参加された全港湾の皆様本当にお疲れ様でした。

(敦賀支部 藤田康弘)

十月二十八日から三十日にかけて、東京にて、東アジアの平和のために、今こそ！憲法理念の実現を目指す第五四回大会が開催されました。関東地方からは、二十八日開会

結果、大政翼賛会が作られ、本です。我が国は、そのあと

国民が騙されて、戦争への道



平和憲法を堅持し、戦争で一人の犠牲者を出す事無く、今日まで平和と非戦を貫き続けてきました。冷戦終結後、国際情勢、世界のパワーバランスが大きく変わり始め、現在日本を取り巻く安全保障環境は、日ごと厳しさを増して来ています。そんな中、近年政府はこれまでの憲法解釈を大きく変更し、本質的には、安全保障体制強化策とはむしろ真逆に作用し、戦争リスクを、かえって高めてしまう事が大いに懸念される「集団的自衛権の行使を可能とすることを含めた安全保障関連法」をはじめ、原発再稼働といった、必ずしも優先順位が高くない政策に、十分な検討、議論無きまま、前のめりに力を傾けています。



な影響があるのかという事を、見つめ直すきっかけとなっていければ良いと思います。今回、東京で開催された「護憲大会」では、全国からの参加者と共に、改憲阻止のため、全力を尽くす決意を固め合いました。とりわけ、声高に叫ばれる東アジアの平和の危機にあたり、政府、与党が言う圧力や、アメリカの軍事力は、何らかの解決をもたらさないばかりか、終局的な事態を引き起こしかねません。今こそ求められているのことに繋がるのだと思いませんか。そのために、我々一人一人が平和活動へ、自主的に参加し、世論を動かしていかなくてはならないと思えます。こういった活動へ、積極的に参加し、今の日本がどう

告知板

各地方・支部は以下の通り定期大会を開催し、新役員体制を決定した(地方順、敬称略)

関西地方中国支部
十一月十二日
執行委員長 沖田総司、執行委員長代行 杉本裕、副委員長 前田康治、書記長 芳中幸男、書記次長 上藤健一郎、常任顧問 川田澄、財政部長 井手強、執行委員 豫風徹宏、山根幹雄、井上俊明、新田谷吉教、岡崎正次、笹山治、会計監査委員 山根幹雄、新田谷吉教

以上

東北地区港湾労働組合協議会 第二六回定期総会に参加して

二〇一七年十一月十五日(水)、宮城県作並温泉「岩松屋」において、二二名が参加して東北地区港湾労働組合協議会第二六回定期総会が開催されました。東北地区港湾

の構成単組は、東北六県の全港、全日通、検数労連、検定労連と常陸那珂港です。今年の総会には全国港湾より松本中央執行副委員長、柏木中告をうけ、松本中央執行副委員長より港湾労働法がなぜ全港・全職種に必要なのか、お話しいただき、総会が学習会にかわりました。

二〇一七年度(二〇一八年)の具体的な取り組みとして、①適正料金と認可料金制度の確立に向けた取り組み、②非指定港の指定港化に向けての取り組み、③港湾労働法の全港・全職種の取り組み、

④地方港における特定港湾倉庫対策を、運動方針に盛り込み、質疑、応答では全国港湾両副委員長が答弁するなど盛り上がりました。

全国港湾役員には、全港湾、日港労連、検数労連、検定労連、全日通と経験豊かな役員がいますので、系谷中央執行委員長をお呼びするのはあたり前ですが、各単組の全港港湾役員にも参加いただき、全国港湾の課題を共有できればと思います。最後に

(東北地方酒田支部 執行委員長 土田弘好)



執行委員長 土田弘好

地方版

九州 災害ボランティアに参加して

私は、九月十三日に九州北部で起きた豪雨災害のボランティア活動に参加してきました。

全港湾長崎県支部としては前週の参加が雨天中止であったため、第一回目の支援活動でありました。現地へ向かう道中は新聞、報道等でも最近の情報があり多く報道されなため、このような状況であるかもわからないまま漠然と「土砂の搬出、家具・家財の撤去」という認識でした。

早朝、現地の災害ボランティアセンターに到着し、登録を済ませ担当者の方と打ち合わせを行った際、「平日であるため支援参加者が少ないこと、約二か月経つがまだまだ復興が追いつかず現在も劣悪な状態の場所があり、そちらをお願いしたい」との旨の話をされました。実際の現場へ向かう際、地図を渡され場所

の確認を行い、自分たちの車両で向かったのですが、実際五分程度の場所の地図が地図通りに家は無く、道路なのかどうかかわからないのが実状であり右往左往を繰り返して十分後になんとか現地へ着くことができました。

その場所は地図とは程遠く、住宅も流された若しくは土砂は搬出されているものの骨組みだけの状態になっており、今回の担当場所も住宅に土砂が流れ込み一階部分が三分の二程の高さまで埋まっている状態でした。その土砂の搬出をお願いされましたが重機はあるものの他の場所へ駆けこみ思うほど捗りませんでした。



計六時間程度の作業でも全体の三分の二程度しか搬出できず、悔しい思いもありました。支援センターへ戻らないうちに「意味の分からない」という切実な言葉が聞こえました。

十一月二十三日(木)、幌延町共進集会所において、「北海道への核持ち込みは許さない!」一・二・三幌延

北海道 第四二回全港湾新潟支部退職者の会総会を開催

去る、十月二十二日(日) 会の会長である小日山さんから挨拶を受け、支部の長谷川職者の会総会を開催しました。代行から衆議院選挙闘争の情勢と最後のお願いを行いました。最後に荒井事務局長から活動報告と新年度の役員体制第一部長会では、退職者の

計六時間程度の作業でも全体の三分の二程度しか搬出できず、悔しい思いもありました。支援センターへ戻らないうちに「意味の分からない」という切実な言葉が聞こえました。

北海道 幌延デー集會に参加して

十一月二十三日(木)、幌延町共進集会所において、「北海道への核持ち込みは許さない!」一・二・三幌延

計六時間程度の作業でも全体の三分の二程度しか搬出できず、悔しい思いもありました。支援センターへ戻らないうちに「意味の分からない」という切実な言葉が聞こえました。

富山新港公共三号埠頭新クレーンが完成する

快晴に恵まれた十月十一日富山新港公共三号埠頭において水平引込式クレーンの安全祈願祭と完成記念式典が執り

物の荷役を中心に行ってきたが年数を重ね老朽化に伴い故障が増えており富山県が約一三億円の事業費をかけてこのたび完成をむかえた。我々港湾関係者の悲願であり、設置に向けてご尽力された県の関係者や各自治体の関係者に対して感謝するところであり



式典に先立って行われた安全祈願祭では港湾関係者や機械メーカーが玉串を奉納し参加者全員で荷役の安全を祈願しました。現場で働くものとして、これまで以上に作業に対する安全性を高め、荷主の信頼を勝ち取り雇用の安定を図っていきたい。

私たちが職場である伏木富山港もバラ貨物からコンテナ化へと貨物の形態が変化して



埋め戻すのはもったいない、「北海道が候補地から外れることはない」と協定を蔑ろにした発言をし、当初から設けられていた研究期間をなし崩し的に延長することを目論んでいます。最終的には、幌延深地層研究所が核廃棄物最終処分場になってしま